



## TKK 共通シラバス

1. 科目名	国際協力論 I				
2. 教員名	浅野壽夫		3. 担当大学	神戸学院大学	
4. 対象学年	1	5. 開講時期	後期	6. 単位数	2 単位

7. 授業の目的・到達目標（神）、授業のねらい及び具体的な達成目標（工）、授業の概要（内容）・到達目標（東）					
<p>&lt;目的&gt; 近年、世界は情報・交通手段を通じて、グローバル化が進んでおり、国や地域を越え、人類の共通の解決すべき地球規模の課題が私たちの生活のなかにも顕在化してきている。本授業は現在の政治・外交問題も視野に入れつつ、国際協力の入門編として、世界が抱えている解決が求められる地球規模の課題について学ぶ。</p> <p>&lt;到達目標&gt; ・世界的規模の課題についての現状と課題、それらに対する取組みについて理解できる  ・流動する世界の政治・社会・経済の現状に対する世界の対応を理解できる  ・国際協力のあり方を理解できる  ・これらの課題が地球の他の国・地域の特殊な課題ではなく、日本と共有するものであることを理解できる。これまで世界で生じてきた課題に対して日本は、国際社会の一員としてどのような対応を行ってきたかを、戦後の日本の国際協力史を通じて理解する事で、あらためて日本の国際社会の中の立ち位置と世界との関連を理解する</p>					
8. 授業のキーワード（神）、授業の方法（東）					
9. 授業の進め方（神）※必須					
座学を中心に講義形式で進める					
10. テキスト、参考書、指定図書（神）、教科書・参考書等（東）					
授業中に、その都度紹介する					
11. 授業時間外に必要な学修（神）事前、事後に受講してほしい講義等（東）					
【事前に受講してほしい講義等】					
【事後に受講してほしい講義等】					
12. 提出課題など（神）					
レポート及び授業内コメント					
13. 成績評価方法・基準（神）、成績評価方法及び水準（工）、評価の方法・基準（東）※必須					
期末試験（場合によりレポート）（70%）、授業内コメント（30%）					
14. 履修するにあたって（神）、学生へのメッセージ（工）、授業時間外学習（予習・復習）・履修上の注意事項（東）					
毎回出席カード（コメント記載の上）を提出する・授業中の私語は厳禁・原則として遅刻は認めない。					
15. 参考（ホームページ（神）、オフィスアワー（工）等）					
授業中その都度紹介する					

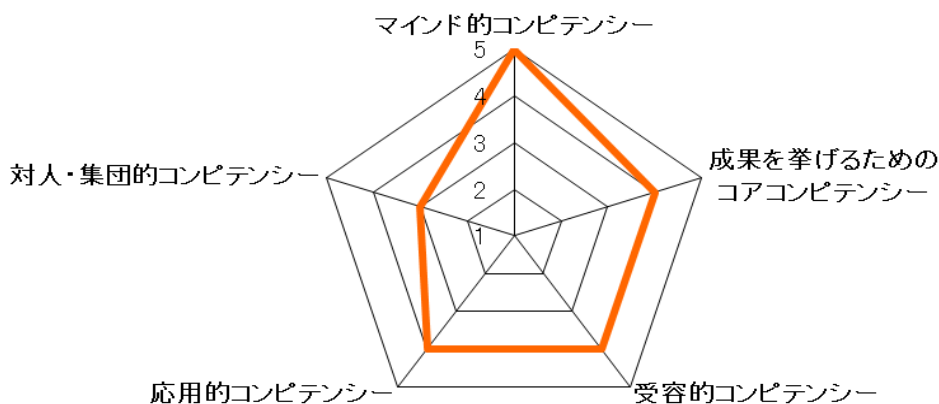
【授業計画（神）（東）、授業計画及び準備学習（工）】

講義番号	主題	内容
第1回	ガイダンス	講義計画・概要説明及び進め方について
第2回	国際協力とは	なぜ、国際協力が実施されているのか。わが国の国際社会との関係の中で理解する
第3回	地球規模の課題Ⅰ	地球規模の課題について、その現状について理解する（貧困）
第4回	地球規模の課題Ⅱ	地球規模の課題について、その現状について理解する（保健医療・教育）
第5回	地球規模の課題Ⅲ	地球規模の課題について、その現状について理解する（環境と災害）
第6回	我が国の国際協力の歴史Ⅰ	第2次世界大戦後の日本社会は国際社会から多くの支援を受け、敗戦から立ち直ってきた。また、その後、援助する側として、世界の中心的援助国として現在までその地位を保ってきた。このような歴史を検証し、我が国の援助の意義を考える。（1945年から1954年コロンボプラン加盟まで）
第7回	我が国の国際協力の歴史Ⅱ	第2次世界大戦後の日本社会は国際社会から多くの支援を受け、敗戦から立ち直ってきた。また、その後、援助する側として、世界の中心的援助国として現在までその地位を保ってきた。このような歴史を検証し、我が国の援助の意義を考える。（1956年から1970年まで援助体制の整備）
第8回	我が国の国際協力の歴史Ⅲ	第2次世界大戦後の日本社会は国際社会から多くの支援を受け、敗戦から立ち直ってきた。また、その後、援助する側として、世界の中心的援助国として現在までその地位を保ってきた。このような歴史を検証し、我が国の援助の意義を考える。（1970年代から1990年までの拡大期）
第9回	我が国の国際協力の理念Ⅰ	第2次世界大戦後の日本社会は国際社会から多くの支援を受け、敗戦から立ち直ってきた。また、その後、援助する側として、世界の中心的援助国として現在までその地位を保ってきた。このような歴史を検証し、我が国の援助の意義を考える。（1990年代から2000年までのODA大綱期）
第10回	我が国の国際協力の理念Ⅱ	第2次世界大戦後の日本社会は国際社会から多くの支援を受け、敗戦から立ち直ってきた。また、その後、

		援助する側として、世界の中心的援助国として現在までその地位を保ってきた。このような歴史を検証し、我が国の援助の意義を考える。(2000年以降の新ODA大綱期)
第11回	私たちができることはI	我が国の政府開発援助とは異なった形態で市民組織NGO、大学、民間企業が国際協力を実施している。これらの事例を理解し、私たちができる国際協力(国際的社会貢献)とは何かを考える。(国民参加事業の展開)
第12回	私たちができることはII	我が国の政府開発援助とは異なった形態で市民組織NGO、大学、民間企業が国際協力を実施している。これらの事例を理解し、私たちができる国際協力(国際的社会貢献)とは何かを考える。(BOPビジネスの展開)
第13回	私たちができることはIII	我が国の政府開発援助とは異なった形態で市民組織NGO、大学、民間企業が国際協力を実施している。これらの事例を理解し、私たちができる国際協力(国際的社会貢献)とは何かを考える。(自治体の国際協力)
第14回	これからの国際協力の流れ	これまで我が国の国際協力について理解を進めてきたが、これからの世界の援助の方向性について学ぶ
第15回	振り返り	これまでの講義を復習するとともに、国際協力の意義について再度考える

### 【コンピテンシー】

(下記に、身につけることが期待されるコンピテンシーを5段階評価でご記入ください。期待度が高いほうが5、低いほうが1です。)



コメント